

一九七四年十一月二十日

一九七四年十一月二十日（水）現地時間

午後零時五分（十一月十九日 米国東部標

準時午後十時十五分）以後使用のこと

ホワイトハウス報道官室（日本・東京）

ホワイトハウス

帝国ホテル内の日本記者クラブにおける

大統領の演説

ご列席の皆さま、在職中に日本を訪れた最初の米国大統領として、私は、この空前の機会に当たり皆さまにごあいさつするとともに、私をお招き下さった日本記者クラブと、日本国民に直接話しかける機会を与えて下さった日本のテレビ放送網に対して感謝の意を表明したい。

私は、日本の並はずれたニュース・メディアによる私の訪問のすばらしい報道ぶりを深く多としている。私はこれまで常に米国のジャーナリストたちと仕事の上で良好な関係を持続してきたものと思つているが、日本のジャーナリストの皆さんに対しても同じような気持をいただいている。私は、すべてのジャーナリストを「いそして他のすべての人々も「私が遇されたいと考えるのと同じように遇することを目標としてきた。

私は、米国民の心からのあいさつをお伝えするものである。と同時に、米国議会の両党指導者からも、よろしく伝えてほしいと言われて来た。米国の民主・共和両政党の指導者たちは、すべての米国民が日本とのパートナーシップをいかに重視しているかを皆さまに伝えてほしいと私に要請した。

大統領がユニオン（合衆国）の現状について議会に対して毎年報告を行うことが、米国ではならわしとなつている。同じ精神のもとに、日本国民は、いま一つのユニオン―友好関係に対する日米両国民の相互的な願望の和合―について、米国民から見たその関係の現状の報告を歓迎されるのではないかと私は思う。

私の故郷のミシガン州ランド・ラピッズでは、いま日本の会社が楽器の組み立てをしている。楽器はそれが生み出すメロディーが調和的であるばかりでなく、日本人々が築いた労使関係も従業員と企業との間の調和のモデルとなつている。

その近くの町、エドモアでは、もう一つの日本の会社が小型電気モーターを製造している。この日本企業もまた、われわれの産業社会に新たなエネルギーと善意を注入している。同じような例は、米国のいたるところで見られる。われわれはそれを歓迎している。

米国民が、貴国の社会に対し米国が貢献したことだけについて語つたのは、遠い過去のことである。今日、交通は両方向に流れている。われわれはどちらも、互いに相手から学びつつある。

米国が日本とのパートナーシップをいかに重視しているかを示すために、私は最初の海外旅行先に日本を選んだ。私はまた、大統領に就任した最初の日に貴国の駐米大使と会談した。私は、長いあいだ、日本の文化の豊かさと多様性、貴国の産業製品、貴国民の創意、創造性、エネルギー、物情騒然とした世界における富源としての貴国民の勇気を称賛してきた。

私がただ一つ残念なのは、妻が皆さまの親切なお招きにこたえてこの訪問に同行することができなかつたことである。私たちは、後日妻ともども来られるよう望んでいる。

米国民は、日米両国が戦後かくも緊密に協力してきたことを誇りにしている。両国の間には多少の意見の相違もあつたが、両国は一貫して友好関係にありパートナーである。

両国は協力して、ともに繁栄できるような環境を生み出し、貿易・旅行面の関係を拡大した。米国が日本と経済、政治、戦略の各部分で相互に依存していることは、明白な事実である。米国は日本にとって最大の得意先兼供給者であり、日本は米国にとって海外で最大の貿易相手国である。また、日本は米国の農産物にとつて、外国における最良の得意先である。

われわれ両国間の貿易総額は、一九七〇年以來倍増し、一九七四年には二百億ドルを越える見込みである。米国の対日投資額は世界最大であるが、日本の対米投資も急増し、日本の海外投資総額の五分の一を占めている。

米国を訪問する日本人の数は一九六六年の五万人から一九七四年に七十万人余にふえたが、これも両面通行で、昨年中に三十五万人余の米国人が日本を訪れており、これは日本を訪れる外国人の半数近くに当たる。

両国は協力して、第二次大戦の遺物を除去した。沖縄返還は、両国間の宿題から、あの戦争の最後の名残を取り除いた。両国は、ソビエト連邦ならびに中華人民共和国との関係を改善するために独自の、しかし相互に抵触しない努力を払ってきた。両国は率直な話し合いのためにより良い経路を生み出した。とりわけ私は、互いに相手を当然視することの危険を弁えていることを皆さんに知つていただきたい。

両国は互いに相手と話し合うさい、何を現代の中心的な必要とみなしているかを互いに相手にたずねなければならぬ。

もちろん、第一は平和である。日米両国民は平和の価値を知つており、物事をこわすのではなくて築き上げることに資源とわれわれ自身の努力を傾注することを希望している。われわれは子弟を再び戦場へ送りたくない。

日米両国の同盟関係は平和の確保に役立つてきたし、今後とも引

続き役立ちうる。この同盟関係は他のいずれの国をも対象としたものではなく、他の国々とわれわれの関係を改善することを妨げるものではない。

日米両国の同盟関係は、両国がまったく同一の態度やスタイルをとることを意味するものではなくて、両国が東アジアの安定を維持し、われわれの援助を必要とする他の国々の開発に助力し、世界の諸問題を軍事的ではなくて外交的、政治的に解決することに協力していこうという決意とともに明確にいただいていることを意味するものである。

両国の同盟関係は、友好関係と協力に国益を見出している両国民によつて築きあげられたものである。私は両国の関係が今後とも引き続き強固で実質的であるものと確信しており、そうなるよう努力することを誓うものである。

しかし、平和がわれわれの唯一の関心事ではありえない。われわれは、市民の生活に影響を及ぼすさまざまな国際的な脅威や危険が存在することを知っている。われわれは、原材料や食糧の供給が漸減している現実や、きわめて複雑な国際経済問題に直面している。われわれは、従来よりも厳しく節約してゆかねばならない。

われわれは冷たい戦争に伴う諸問題の解決に協力し成功を収めたが、これはわれわれが協力したからである。現在、われわれは、新しい、よりいつそう複雑な諸問題に直面している。

一八五四年に、日本の改革家佐久間象山は、一九七四年を見抜いたものと思われるような卓見を明らかにして次のようにいつている。

「私は二十歳にして、人間は一地域の中で結ばれていることを知った。」

「私は三十歳にして、人間は一国の中で結ばれていることを知った。」

「私は四十歳にして、人間は五つの大陸からなる一つの世界の中

で結ばれていることを知った。」

百二十年後の今日、国家間のきずなは、かつてないほど緊密になり、近代テクノロジーは世界を一つにしている。個人あるいは一国の成敗は、他のすべてに影響を与える。

米国人の中には、米国内に未解決の問題がある時に、なぜ私が日本訪問の招待を受諾したのかといぶかる者もいる。

そのような米国人に、私は、多くの国内問題は単に米国の問題ではなく、世界全体の問題なのである、と答えた。他国と同様、われわれはインフレを抱えている。他国と同様、われわれは景気後退に直面している。他国と同様、われわれは物価上昇と燃料・原材料の潜在的不足に対処しなければならぬ。米国はこれらの問題を単独で解決することはできない。各国は、協力することによつてのみ、これらの問題を解決できる。

われわれは、今日の平和を維持するために協力しているように、明日の問題を解決するためにも協力できる。

われわれ両国は、国際協力の成果のモデルを世界に示しているが、同時に、新たな困難に対処するうえでもモデルとなることができる。日米両国は、偉大なテクノロジーと人的資源、また偉大なエネルギーと想像力を備えている。われわれは共に、開発途上諸国への責任を認めており、不可欠な天然資源を秩序ある形で平和的に分かち合つてゆくことを考えている。

われわれは、協力して世界的な経済問題に取り組むことができる。私は、われわれが単に一時的な同盟国ではないと信じている。われわれは、恒久的な友好国である。

われわれは、同じ目標——平和、発展、安定そして繁栄——を共有している。これらは、単に立派で重要な目標であるばかりではなく、共通の目標なのである。

平和と経済の福祉という問題は、不可分に結びついている。われ

われは、平和は繁栄なしに存在しえず、繁栄も平和なしに存在しえず、また世界の大国がその達成を目指して協力しなければどちらも存在しえない、と考えている。これは、われわれ自身に対して、相互に対して、さらには日米両国民すべてに対して、われわれが負っている責務である。

日本と米国には、共通の国家的なスポーツとして野球がある。野球の試合では二つのチームが争うが、相手がいなければ試合はできない。また、双方が相手チームを尊敬し、ゲームのルールを尊重しなければ試合にならない。

私は、われわれが生活している世界について私の考えを述べてきたが、ここで米国民について少し話してみたいと思う。

米国民は、その歴史において幾度か困難な時期に直面してきた。彼らは、これからも困難に直面することを知っている。彼らの負担は、国内においても海外においてもきわめて大きい。米国を観察している人たち——米国人も含めて——の中には、米国民は自信も、責任感も、創造性も失なつてしまった、と指摘する人がいる。これは真実ではない。

この一年間に米国の多くの地域を旅行したが、そのたびにいつも私はすがすがしい気分でワシントンに帰る。わが国民は果敢で現実的である。わが国民は積極的である。彼らは、全国の無数の町や市で自分たちの問題を解決しつつある。彼らは、歴史が米国の双肩に大きな責任を課していることを引き続き理解している。米国民は、彼らがこれまで常に示してきたのと同じ力と決意をもつて彼らの本分をつくす用意と意思がある。

米国民はまた、いかに強力な国家といえども自国だけで歴史の進路を左右することは望みえないことを知っている。しかし、基本的諸問題を理解して、われわれの国益を明確化し、共通の目的を達成するために他の国々と提携する能力によつて、発生する出来事に影

響を及ぼすことは可能である。そして、米国民は、建設的な目的のために、真の相互依存精神のもとに、そうしようと決意している。そうした精神のもとに、私はきょう、皆さんに誓いたい。われわれが将来の諸問題に直面するとき、米国民は、これまで同様、われわれのコミットメントを忠実に守り、確固としてわれわれの共通の目標を追求するであろう。

われわれは信頼できる同盟国であるばかりでなく、たのむに足る貿易パートナーでありつづけるつもりである。われわれは、今後とも貴国が必要とする商品の供給者となるであろう。もし不足が起これば、われわれの伝統的な貿易パートナーの必要を特別に考慮するつもりである。われわれの友人たちの市場や資源を求めて彼らと競争するつもりはない。われわれは彼らと協力することを望んでいる。われわれの外交政策の基本的理念は依然として不変である。それらの理念は確固たる超党派の、国民的支持を得ている。米国民は依然として強く、自信に満ち、忠実である。われわれは時としてぐらつくかもしれないが、失敗はしない。

最後に、個人的な考えを申し述べてみたい。

私は、日本を訪れた最初の現職の米大統領であることを光栄とし、また大きな喜びとするものである。私は日本の古都、京都を訪れることを楽しみにしている。日本は急速な近代化にもかかわらず、その文化的主体性を保ってきた。私はすべての変化が必ずしも良いとは思わない。われわれは、現代のもろもろの課題や圧力に過去の永続的な価値を適用することに努めねばならない。米国民は、日本国民の方々と同様、二十世紀の最後の二十五年間にはいろいろとしている現在においてさえ、伝統を尊重することを日本から学ぶことができる。

私はまた、もう一つの大きな榮譽を期待している。きのう天皇陛下をご訪問申し上げたさい、私は陛下の米国民ご訪問を改めて招請し

た。天皇陛下をワシントンにお迎えして、米国のこれまでの偉大な英雄たちの記念塔の背景をなしている優美な日本の桜その他、米国の国家的な聖地や秘宝を陛下にお見せする最初の米国大統領となることは、この上ない喜びである。

私の日本訪問を手始めに、将来多くの米国大統領が日本を訪問するよう、私は希望している。

また、われわれ両国がそのすべての市民と全人類の生活に影響を及ぼす多くの共通の問題に協力して対処していく上で、両国の指導者たちが両国民がこれまでに示した手本にならつて相互の国を頻繁に、自由に訪れるよう、私は希望している。

私は大統領として初めて議会で行った演説の中で、私の行政府はコミュニケーション、融和、妥協、協力に基づいていると述べたが、こうした理念は米国の対日政策についての私の考えをも導いている。日米両国ともなすべき仕事が多々ある。これを協力して遂行しようではないか。また、平和を追求し続けようではないか。戦争へ向かつて一歩踏み出すよりも、むしろ私は平和を求めて千マイルでも歩く覚悟である。

ご清聴ありがとう。